

凸版印刷、機能強化したVRで高野山周遊観光促進

8月3日にグランドオープンする文化観光拠点で
スマートフォンと連動したVRツアーや持ち帰り可能なコンテンツを提供

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、高野山真言宗総本山金剛峯寺(所在地:和歌山県伊都郡高野町、以下 金剛峯寺)の協力のもと製作し、2021年11月に初公開した、VRコンテンツ『高野山 壇上伽藍―地上の曼荼羅―』に、来訪者とのコミュニケーション機能や、高野山内の文化資源の見所やストーリーを持ち帰ることができる周遊促進機能を追加しました。世界遺産・高野山の豊富な文化資源の魅力や価値をより深く体感するための文化複合施設「高野山デジタルミュージアム」のグランドオープンにあわせて2022年8月3日(水)から公開を開始します。

今回の機能追加により、「高野山デジタルミュージアム」のVRシアターにおいてVRコンテンツ『高野山 壇上伽藍 一地上の曼荼羅一』を鑑賞する際、来場者が各自のスマートフォンで回答した好みの観光スタイルに応じて、専属ナビゲータがVRを操作して周辺情報をご案内できるようになります。また、来場者が持ち帰ることができるコンテンツとして、壇上伽藍を実際に歩いて見学する際のサポートツール『壇上伽藍ビジュアルガイド』などを用意。高野山の二大聖地の一つである壇上伽藍(だんじょうがらん)へ来場者を誘導し、高野山の周遊観光を促進します。



VRコンテンツ『高野山 壇上伽藍―地上の曼荼羅―』
製作協力:高野山真言宗 総本山金剛峯寺
製作著作:凸版印刷株式会社 ©TOPPAN INC.

高野山デジタルミュージアム VRシアター画像提供:株式会社 DMC 高野山

■ VRコンテンツ『高野山 壇上伽藍―地上の曼荼羅―』について

凸版印刷が2021年11月に発表したVRコンテンツ『高野山 壇上伽藍―地上の曼荼羅―』は、高野山真言宗総本山金剛峯寺(所在地:和歌山県伊都郡高野町、以下 金剛峯寺)の協力のもと、高野山の二大聖地の一つである壇上伽藍(だんじょうがらん)をくまなく精確に再現し、通常非公開の西塔内部を含めた壇上伽藍を自由な視点で鑑賞できるコンテンツです。2021年11月3日から11月28日まで期間限定で特別公開しました。

■ 新たに開発した周遊促進機能について

・来訪者のスマートフォンと連動した VR ツアー

VR シアターでは、専属ナビゲータが VR 空間を自由に動き回れるコントローラを用いて同コンテンツを上演し、弘法大師空海が唐より持ち帰った曼荼羅と壇上伽藍の解説を含め、高野山の魅力を丁寧にお伝えします。また、開演前に来場者のスマートフォンで専用 Web サイトにアクセスすることで、スマートフォンと連動した VR ツアーをご案内します。来場者のスマートフォンには、VR 作品鑑賞前の予備情報をお届けすると共に、アンケートを表示して好みの観光スタイルを質問します。約 17 分間の本編上演後、回答が最も多かった観光スタイルに合わせて行き先や解説テーマを変更し、専属ナビゲータが VR を用いて、現地では見られないアングルを交えながら壇上伽藍の見所や建築の解説などを行います。



来訪者の観光スタイルに合わせてナビゲータが壇上伽藍の見所を案内

・持ち帰り可能なスマートフォン向けコンテンツ

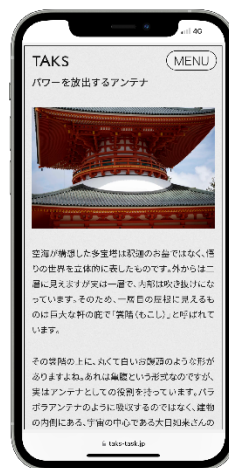
高野山デジタルミュージアムのグランドオープンに合わせ、VR シアター来場者が持ち帰ることができる2つのコンテンツを公開します。

①『壇上伽藍ビジュアルガイド』

スマートフォンのスクロール操作のみで閲覧できる壇上伽藍見学時のサポートツールです。サポートなしでは気が付きにくい彫刻細部の解説や、立ち入ることができない塔の内部の様子などをコンテンツで見ながら現地で見学することによって、壇上伽藍の魅力を深く体感することができます。

②インタビュー掲載サイト『TAKS』

1200年受け継がれてきた高野山の文化をさらに未来へ託す活動をされている方々のインタビュー記事を紹介します。記事を通じて高野山の文化や文化財への造詣を深め、再び高野山への来訪意欲を高めていただくことを目的としています。



壇上伽藍ビジュアルガイドとインタビュー紹介サイト(TAKS)

© TOPPAN INC.

■ 「高野山デジタルミュージアム」の概要

名称	高野山デジタルミュージアム
所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山 360 番地
営業時間	10:00～17:00 (※8/3(水)のみ 11:00～17:00)
定休日	12月～2月不定休 (※VRシアターのみ、毎月最終月曜日休演)
施設 HP	https://www.dmckoyasan.com/digitalmuseum/
管理者	株式会社 DMC 高野山

■ 今後の展開

2020年5月に文化観光推進法が成立したことを背景に、全国で文化資源を有する自治体を中心に、文化についての理解を深めることを目的とする文化観光の推進や文化観光拠点施設の整備が進められています。凸版印刷は、文化観光拠点として開業される高野山デジタルミュージアムにおけるコンテンツ開発・上演で得た知見をもとに、文化を起点とする地域活性化ソリューションとしての磨き上げを行い、文化財の魅力を発信するコンテンツを通じた自治体における文化観光推進支援を進めていきます。

■ 凸版印刷の文化財 VR への取り組み

凸版印刷は、1997年から文化財のデジタルアーカイブデータを公開する手法として VR 技術を用いた「トッパン VR」の開発に取り組んでいます。

これまでに、寺社や博物館・美術館、自治体などの文化財ホルダーと協業し、国宝 法隆寺金堂や国宝 阿修羅像、国宝 松林図屏風、中国・故宮、マチュピチュなど、国宝や世界遺産をはじめとする国内外の貴重な文化財をテーマとした VR コンテンツを多数制作しています。

また、江戸城天守を 8KVR で制作するなどの超高精細表現技術開発や、帝国ホテル旧本館ライト館の VR 再現といった近代建築分野への取り組みも展開しています。

VR の利活用・公開の場として、熊本城観光交流施設内の「熊本城ミュージアム わくわく座」での VR シアター開設や、東京国立博物館へ「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」を導入するなど、国内外 20 か所以上の文化施設、観光施設へ VR シアターを展開しています。

2018 年 6 月に、日本各地の文化資源の魅力を先端表現技術で世界に発信する地方創生・観光立国の共創拠点「NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI」を東京・丸の内に開設。官公庁、自治体、観光関連団体・企業との共創によって日本文化の魅力を提案・発信、地方創生・観光立国の実現を進めています。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上